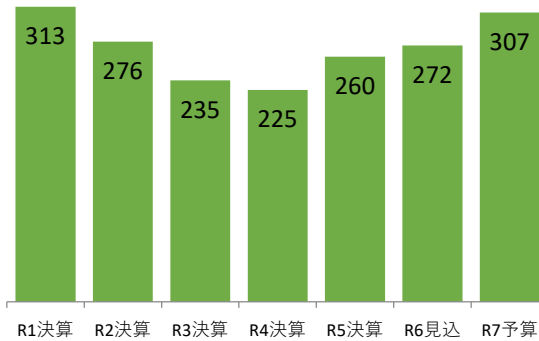


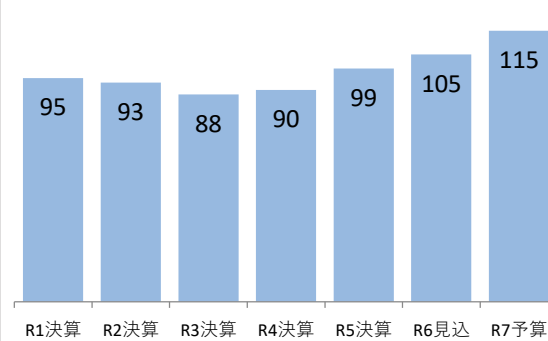
令和 6 年度決算見込みと令和 7 年度予算について

1日当たり入院患者数（人）



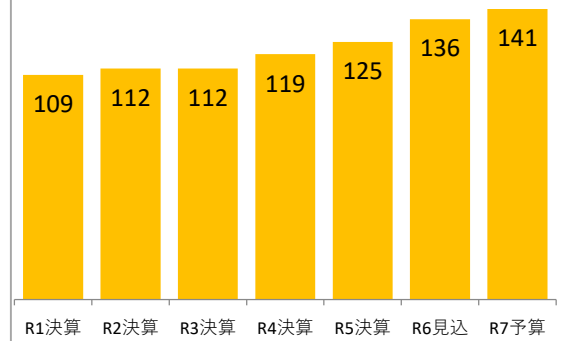
コロナ前は一日当たりの入院患者数は300人以上であったが、コロナ禍で200人前半に減少した。患者数は回復傾向でR6血管外科新設、R7整形外科病棟再開を見込み、R7予算は307人とした。

医業収益（税込み）（億円）



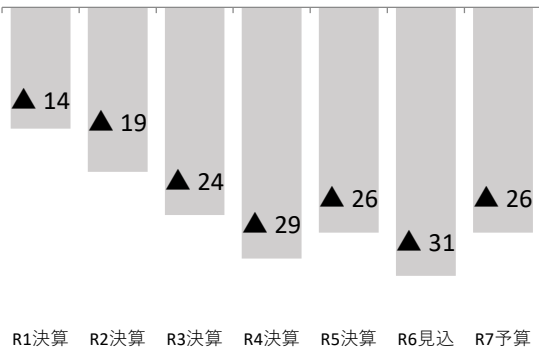
R2からR4はコロナ患者受入のための診療制限の影響により低迷。R5、R6で回復の兆しがみられたほか、R7予算は血管外科・整形外科の増収や診療報酬の加算取得増などで115億円とした。

医業費用（税込み）（億円）



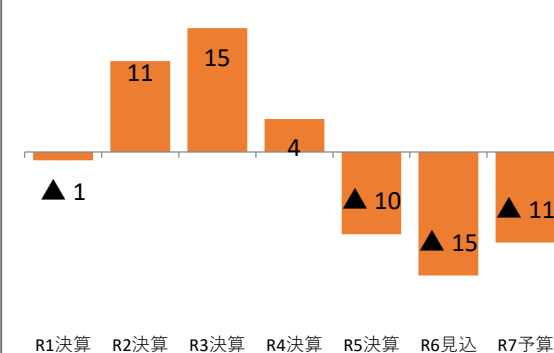
人事院勧告による人件費の増、委託料など労務単価の増、光熱水費の高騰等により医業費用は増加傾向。R7予算はこうした委託料や人件費の増等を踏まえ141億円とした。

医業収支（億円）



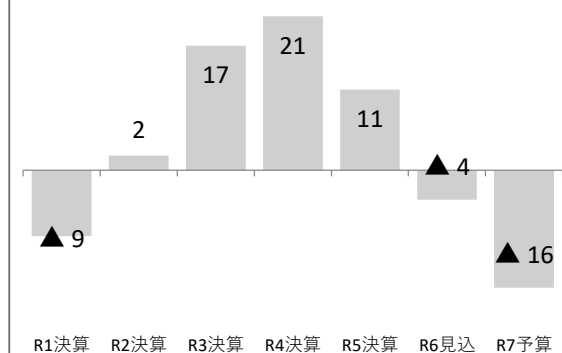
医業収益が回復傾向にあるもののそれ以上に医業費用が増加しており、収益と費用の差である医業収支の赤字は拡大傾向にある。

単年度資金収支（億円）



R2からR4はコロナ補助金により黒字。一方、R5はコロナ補助の減に加え、患者数の減及び費用の増により再び赤字。R6も厳しい状況が続いているが、R7以降、患者増と費用削減により赤字幅圧縮を目指す。

資金残高（億円）



R2からR4のコロナ補助金で増加した資金残高はR6に枯渇してしまう。R7はマイナス16億円の資金不足の見込で当初より厳しい状況が想定される。